



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 3 (通巻358号) 1997年3月

東京国際ブックフェア'97

東京国際ブックフェア'97が去る1月23日(木)より26日(日)まで4日間、有明の東京ビッグサイトで開催されました。ブックフェアの主催や構成については昨年の会報で詳しく報告しましたので省略します。日本の出版業界の各団体が名を連ね、洋書輸入協会も主催者に加わっています。初日の開会式には名誉総裁・三笠宮殿下ご臨席のもと、内外の出展社、並びに出版業界関係者、出展各国の大使館関係者多数が出席されました。残念ながら鈴木理事長(丸善社長)と中田理事長代理(丸善取締役)は所用があり、当日ご出席出来ないということで、事業委員長の渡辺洋販社長が代理でテープカットに参加しました。

今回の出展社は国内外31ヶ国、351社(海外72社、国内279社)を教えました。今年もアジア・太平洋出版連合(APPA)の総会が有明の国際会議場で開催されたので、この関係の出版社の参加が多くなっています。残念ながら欧米の主要出版社の参加は今年も少なく、国際ブックフェアというにはいささか淋しい感じです。

会場が千葉幕張から有明の東京ビッグサイトに移り、都心に近くなったせいか来場者は昨年の約20%増の3万3千人を越えたということです。展示ブースは7つの専門分野(自然科学書、人文・社会科学書、児童書、電子出版・マルチメディア、学習参考書・辞典、編集・制作プロダクション、印刷・製本)とブロック毎に分けられ見やすいように工夫がこらされました。協会のメンバー

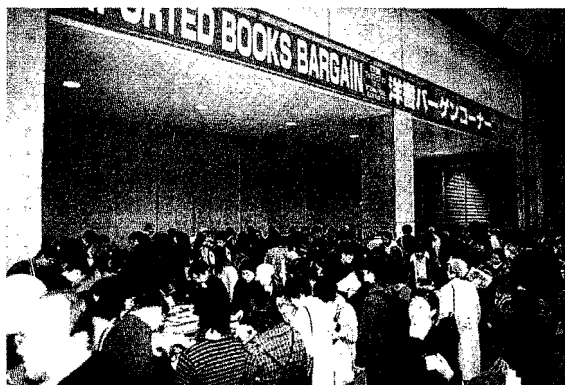
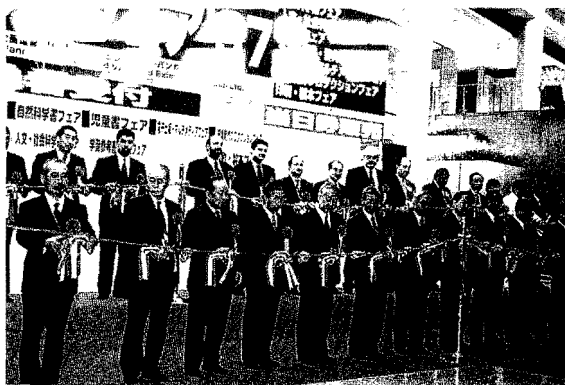
からは丸善、日貿、ハーバーコリンズ、雄松堂、トーハン、日販、洋販等がブースを持っていました。

併催イベントとして「造本装幀コンクール展」「著者によるサイン会」や出版業界に関連したセミナーなどがありました。洋書輸入協会としてはいまやこのブックフェアの目玉のひとつとなった洋書バーゲンコーナーを事業委員会(フランス図書、HBJ、マイブックサービス、丸善、日貿、ペンギン、ユサコ、雄松堂、洋販)で運営しました。バーゲン商品を準備し協力いただいたのは昨年より2社多く、13社となりました。絵本の家、ゲーテ書房、ハーバーコリンズ、教文館、マイブックサービス、三善、丸善、日貿、東光堂、タトル、UPS、雄松堂、洋販の各社です。相変わらずの人気で連日黒山の人だかりで、去年より少し多い1020万円の売上となりました。特に今年のカレンダーが500円前後の破格の値段で売られ人気を集めました。全体に安い価格設定なので売上の割には対応が忙しく包装紙や袋類がすぐ不足してしまうような状態でした。しかし、お客様には大変喜ばれる催しのひとつとして定着した感があります。土曜、日曜に日程がかかりますので事業委員会の方々および出品いただいた各社の担当の方々には大変お世話になりました。年に一度、出版に関係する人達が一堂に会し顔を合わせるのも楽しいフェアとなってゆくようです。

(洋販・大倉)

目次

東京国際ブックフェア'97.....1	うちの会社.....3	お知らせ.....6
理事会報告.....2	洋書輸入通関統計(前編).....4	出版文化史逍遙一西から東一(14).....7
海外ニュース.....2	文化厚生委員会だより.....6	広告.....8



理事会報告

2月27日(木)

㊦収支報告

2月14日(金)開催の総務委員会で審議の1月分収支について総務委員長の報告を承認した。

㊧委員会報告

1. 会報委員会

イ. 会報2色刷りの赤を来期より薄緑に変え活字体も一部変更の予定。

ロ. 官庁、学校等への無料配付先を再点検して来期よりPRを強化したい。

2. 事業委員会

先の理事会で報告のバーゲンセールの各社別売上額が算出されたので参加15社に対し送金手配した。

㊨特別委員会報告

5回に及ぶ議論の末全会員を対象とするアンケート(案)が提出され審議の結果承認した。

㊩その他

ハーバーコリンズ・ジャパンの庭野代表より本社の意向により3月末で日本の事務局が閉鎖されるため協会を退会したい旨申し出があり承認した。

海外ニュース

運転席にオーディオブックを

オーディオブック業界では、オーディオブックを印象的に使った日本車(イスズ・ロデオ)のTVコマーシャルが話題になっている。このCMはプライム・タイムにメジャー局で頻繁に流されているもので、馬に乗ったガンマンたちに追いかけて、山道をイスズ・ロデオに乗って疾走する男が登場する。ウェスタン・ミュージックにのって、男はでこぼこと曲りくねった山道を猛スピードで走り、追手の追走を大胆にふり切ってゆく。突然音楽がやみ、ガンマンは消え、声が聞こえる。「テープ2を挿入して下さい」男がテープを取り出すと、オーディオ・ブックのタイトルがアップで写る。“Ambush at Canyon Creek”(大峡谷での待ち伏せ)。

CMのコンセプトはサンフランシスコの広告代理店、Goodby, Silverstein & PartnersのAlbert KellyとJoe Shandsによるものだ。彼らの意図はイスズ・ロデオを勇敢で冒険好きで楽しいというイメージで描くことで、それらの特徴をシンボライズするためにオーディオブックを選んだ。彼らはこのアイデアを、広告に使われたことのない斬新で知的なものとしてイスズに売り込んだ。オーディオブックを使うというアイデアは、コピーライターに多くの選択肢を与えた。当初ドライバーは“The Legend of Sleepy Hollow”(ワシントン・アーヴィングの作品)を聞いていて、追跡者は馬に乗

る頭のない男という設定だった。しかし、この映像を不快に感じる視聴者もいるだろうということで、“もう少し親しみやすいキャラクター”カウボーイ版が制作されたのだ。

Books on Tape という社名を使ったことについて Kelly は「例えば The Spoken Books のような架空の名前を使うこともできたが、この場合 Books on Tape という名前を使うほうがアイデアを印象づけられると考えた」と言う。Kelly と Shands は Books on Tape 社にそのロゴとタイトルを使用する許可を求めた。カリフォルニア州ニューポート・ビーチの同社担当 Director, Barbara Singleton はそれを聞いて「とてもワクワクしました」と語る。2 人のコピーライターが何点ものウ

ェスタン小説を聞いてみたが、びったりのものが無く、架空のタイトル “Ambush at Canyon Creek” を使う許可を求めたのだ。

オーディオブック使用に関しては金銭は支払われていない。Books on Tape 社の Director of Special Project, Katrin Banhauer は、「TV で流されるだけで満足している」と言う。彼女は、イスズの CM を観た人はオーディオ・ブックの宣伝だと思うだろうとも言える。「この CM のおかげで、我々が TV コマーシャルを作ったのと同じ効果があると考えます」。この CM が流されはじめる 2 月 10 日以降に、Books on Tape の売上拡大に CM が貢献するかどうか判ると彼女は語った。

【PUBLISHERS WEEKLY/MAR. 3, 1997 より】

うちの会社

西山洋書株式会社

当社は1982年銀座の小さなビルの3階の8坪程の狭い店舗で営業を始めました。車、飛行機、鉄道、船等の乗り物関連の図鑑や写真集、映画や玩具、コミックというようなビジュアルな趣味の洋書だけを扱って来ました。「大丈夫ですか」「やって行けるんですか」のお客様の心配の声を聞きながら、早15年が経ちました。「マニア」「エンスー」と呼ばれる熱心なお客様が多い事もあって出来る限りの対面販売を心がけています。個々のお客様のニーズやオーダーはかなり細かく入手困難なもの、多時間を要するもの等様々です。的確な情報を提供し、顧客のニーズに応えられる品揃えを目指し、7年前に池袋店をオープンしました。DM や雑誌広告に依る通信販売もやっておりますので、地方

のお客様にもご利用いただいています。

何故乗り物の本なのかとよく訊かれます。勿論、美術書、文学書、学術専門書等も扱いたいのですが寧ろ時間や価格に拘わらず、入手希望のお客様の熱心さに応えたいと思っています。最近は英米独等の主要国から許りではなく、ポーランド、チェコ、ロシア等からの本も少数ながら、輸入販売し好評を得ています。正に「多品種、少数販売」で経営的にはうまくないのかも知れませんが、今後も読む本と言うより寧ろ見て楽しめる洋書があってもいいのではないかと、力まず、お客様との対話を楽しめる様な「面白い洋書店」を続けて行きたいと思っています。

(西山久吉)

JBIA DIRECTORY 1997

— 4 月中出来予定 —

(洋書輸入協会ダイレクトリー1997年版)

25.7×18.2cm	280頁	会員価格	2,500円 (送料共)
		一般価格	4,500円 (")
		海外価格	8,000円 (航空便送料共)

1996（平成8）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

大蔵省関税局から、1996（平成8）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

新設のもの。新聞ではない。

（表3）書籍・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 目	'95.1～12月 価 額	'96.1～12月 価 額	前年比	構成比
書 籍	24,520	29,399	%	%
新 聞 ・ 雑 誌	17,418	19,844	114	40
計	41,938	49,243	117	100

1. 1996年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 目	'95.1～12月 価 額	'96.1～12月 価 額	前年比	構成比
単一シートのもの	91	144	158	0.5
辞典及び事典	498	742	149	2.5
その他のもの	23,931	28,513	119	97.0
計	24,520	29,399	120	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートのは、折り畳みであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

2. 最近10年間の推移一覧

（表4）1987～'96年、書籍・新聞・雑誌輸入通関統計推移表（指数は1980<昭和55>年を100としたもの）

（単位 百万円）

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 目	'95.1～12月 価 額	'96.1～12月 価 額	前年比	構成比
一週に4回以上 発行するもの	192	117	61	0.6
新 聞	15	42	280	0.2
雑誌その他の 定期刊行物	17,211	19,685	114	99.2
計	17,418	19,844	114	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかいないかを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するものは」は、'88より

暦年	書籍			新聞・雑誌(注1)			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1987	21,461	118	93	12,339	125	110	33,800	121	99
'88	23,143	108	101	13,591	110	121	36,734	109	107
'89	27,181	117	118	14,083	104	125	41,264	112	120
'90	33,274	122	145	16,966	120	151	50,240	122	147
'91	27,124	82	118	14,399	85	128	41,523	83	121
'92	26,597	98	116	19,360	134	172	45,957	111	134
'93	24,109	91	105	15,928	82	142	40,037	87	117
'94	23,924	99	104	16,023	101	143	39,947	100	117
'95	24,520	102	107	17,418	109	155	41,938	105	122
'96	29,399	120	128	19,844	114	177	49,243	117	144

（注1） 1988（昭和63）年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87年以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正してある。

（注2） '93、'94、'95の新聞、雑誌及び合計の指数の数

字を微調整した。

3. 分 析

(1) 久しぶりの2ケタ、前年比17%の成長

長らく円高に悩まれ、売上高が低迷していた業界も、6年ぶりの円安を迎え、2ケタの成長を見ることが出来た。(表3参照)。(表4)で過去10年間の推移を見ると、1992年の11%の成長は、'91の17%ダウンの調整部分が大きいから、これをノーカウントとすると、'96の2ケタ成長は、6年ぶりのこととなる。

(2) 実質的には、3.3%の成長でしかない

1996年の主要諸国の年間平均円相場を、各国からの洋書輸入額の構成比で加重平均したものは、(表6)に記載されているように、前年比14.1%の円安である。これは、17.4%の成長のうち、14.1%分は円安のための換算増ということになるので、1996年の実質的な成長は、差し引き3.3%でしかない。

(3) 雑誌は史上最高、ただし実質成長はゼロ

雑誌その他の定期刊行物は、前年比14%の成長をして、史上最高を記録したかに見えるが(表4参照)、前年比14.1%の円安を勘案すると、実質成長はゼロである。雑誌は実りのない数字がひとり歩きしていて、業界各社ともこの時期の円安には苦労していよう。業界全体が、雑誌の取扱いには意欲を失っているようにも見受けられる。

なお書籍対雑誌の比率は、58:42から60:40へと、書籍の地盤沈下傾向を僅かながら巻き返している。

4. 主要6カ国の1996年1～12月、書籍、新聞・雑誌の国別輸入通関統計表

(表5) 主要6カ国及びその他の国の集計

(単位 百万円)

国名	書籍			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	10,171	132	35	7,054	112	36	17,225	123	35
英	6,488	111	22	5,532	122	28	12,020	116	24
独	2,460	98	8	1,458	111	7	3,918	102	8
仏	897	104	3	396	72	2	1,293	92	3
オランダ	1,511	133	5	2,257	125	11	3,768	128	8
スイス	594	110	2	658	121	3	1,252	116	2
小 計	22,121	119	75	17,355	115	87	39,476	117	80
その他の国	7,278	124	25	2,489	105	13	9,767	118	20
計	29,399	120	100	19,844	114	100	49,243	117	100

(注1) 書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。

新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。

(注2) ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

[分析] (表5及び表6)参照。米書籍、英雑誌、オランダ書籍雑誌、スイス雑誌、その他の国の書籍は円安幅を大きく上回ってアップしているが、米雑誌、英・仏書籍、その他の国の雑誌は実質ダウン、独書籍、仏雑誌は円安を勘案すると大幅ダウンである。

5. 主要6カ国の為替相場の動向と書籍・雑誌全体の円高率の算定

(表6) 1996年1～12月、主要6カ国の年間平均為替相場の前年比と、その他の国の前年比の推定、及び年間洋書輸入額構成比に応ずる各国相場前年比の加重平均とその集計

通貨	'95. 年間 平均為替相場	'96. 年間 平均為替相場	前年比	'96年、洋書輸入 価額構成比	'96. 年間円高、 円安の加重平均
U.S \$	95.01	109.86	15.6%の円安	35	5.5%の円安
Stg. £	152.36	174.11	14.3%の "	24	3.4%の "
D.M	66.32	73.05	10.2%の "	8	0.8%の "
F.FR	19.27	21.69	12.6%の "	3	0.4%の "
D.GL	59.19	65.17	10.1%の "	8	0.8%の "
S.FR	80.59	89.05	10.5%の "	2	0.2%の "
小 計				80	11.1%の "
その他の国			推定 15.0%の "	20	推定 3.0%の "
総 計				100	14.1%の "

(注1) 円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期}-\text{当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

(注2) その他の国の中の主な国18カ国を調べると、SA. RDを除きすべて円安である。しかも円安率が高い国が多い。20%以上の円安国は、S.KR、D.KR、L.IT. A.\$、NZ.\$、などである。

6. 1990年以降の米\$為替相場、各国円高、円安の加重平均、洋書輸入額前年比の一覧表

(表7) 1990～1996の為替相場と輸入額の推移表

区分	1990	'91	'92	'93	'94	'95	'96
	円						
米\$平均為替相場	145.90	136.13	127.64	112.09	103.22	95.01	109.86
同上前年比	5.0%の円安	6.7%の円高	6.2%の円高	12.2%の円高	7.9%の円高	8.0%の円高	15.6%の円安
洋書輸入額前年比	122	83	111	87	100	105	117
各国為替相場の加重平均による前年比	13.4%の円安	7.6%の円高	4.6%の円高	17.0%の円高	6.6%の円高	3.4%の円高	14.1%の円安

'91～'95の5年連続の円高の下で、値下げによる売上の収縮に耐えて、同業各社は良く頑張ったものと思う。

(後編に続く)

文化厚生委員会だより

新春囲碁会の報告

1月30日(木)午後5時30分より恒例の囲碁同好会打ち初め会と懇親会が高田馬場囲碁クラブおよび同ビルの「揚子江」で催されました。何時も時間を過ぎてしまうので今年は遅れまじと早めに出かけ、勇んで会場へ乗り込みました。

この同好会の創始者のお一人、洋販の渡辺会長も時間に見えられたので、一局を申込みましたが、ご都合があるとのことで帰られたのはいかにも残念でありました。昨年の打ち初めで、久しぶりに一戦加え、楽しかったと報告したのを思い出しながら、あの時は何年か前の箱根以来だったなァ、と懐かしい思いでした。

日本の人口と同様、当同好会も高齢化の一途を辿っているように見えます。その中で、若手ナンバー・ワンは

洋販の渡辺社長。渡辺社長はテニスも上手いので、あちこちでお世話になる結果となっています。これからも宜しくお願いします。

石毛先生に指導碁を打って戴きながら、前回よりお顔色も良く、お元気な様子にお見受けしました。やはり、全く歯が立たず、「九つの黒石」は一体どこにあったのだろうと悲しい思いでした。懇親会に移り、すっかり健康を回復されたとの由、久しぶりに先生の生き生きとした話振りが戻ってきたようでした。

いつも心暖まるお手配をしてくださる名幹事、ゲーテ書房の村山社長に厚く御礼申し上げます。7月の箱根合宿を楽しみにしております。囲碁愛好家の皆さん、もっと大勢で参加しましょう。(R. A. 記)

お知らせ

(株)グローバルメディア・システムズが会社合併により右記の名称に変わりました。

4月28日より新オフィスで業務が開始されますが住所、電話、Fax 番号も全て変わります。

(株)キャリア・デベロプメント・インターナショナル
 ☎108 東京都港区三田 3-13-16
 三田43森ビル7F
 ☎03-5445-2900 (代表)
 グローバルメディアグループ
 Tel 03-5445-2936
 Fax 03-5445-2937

英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—(5)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ウェブスターとアメリカの辞書の幕開け

小島義郎先生は「ウェブスターという名がアメリカ辞書の権威の象徴となっている」と記しているが(『英語辞書物語』上)、“Books in Print 1996-1997”を見ると「ウェブスター」を冠する辞典(専門用語辞典・各種辞典を含む)は181点も収録されていることに驚かされる。「ウェブスター」という名前は19世紀の半ばにはすでに「辞書」と同義語になっていた(ロリンズ『ウェブスター 辞書の思想』)、というほど長年アメリカ辞書の代表としての位置を占め続けている。

ノア・ウェブスター(Noah Webster 1758-1843)はコネチカット州ハートフォードに生まれ、エール大学で法律を学んでいたとき勃発した独立戦争に、愛国心もだしがたく義勇兵として参戦した。ナショナリストであった彼は、当時塾や学校で使用していた教科書のほとんどがイギリスのものであったことに不満で、アメリカの国語教育のために独自の教科書編纂を思い立った。こうして1782年に有名な“The American Spelling Book”を刊行した。青表紙のため「ブルーバック・スペラー」と通称されるようになる著作で、スペリングと発音ばかりではなく、読書力養成のために地理、歴史、寓話などリーダーを併載した総合的な教科書であった。刊行されたのが独立戦争後間もなくで、イギリスから教科書の輸入が途絶していたこともあり、また英語の読み書きのできない移民が増加していた社会的状況のなかで爆発的な売れ行きを示し、一説によると生前だけでも404版を重ねて4,000万部、19世紀の終わりまでに1億部販売し、20世紀に入ってから70年代ごろまで教科書需要が続き版を重ねた。現在もファクシミリ版で入手が可能である。

日本で「スペリングブック」と呼ばれたこの本は、明治期前半に教科書などで盛んに使用され、近代化の醸成に大きな貢献をした。『国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書目録』第五巻には、上掲の『アメリカン・スペリングブック』を改編した“Elementary Spelling Book”原書のリプリント版が明治10~20年代にいろいろな出版社から刊行されていたことが見られ、また翻訳書もウェブストル氏著『スペリング独稽古』とか『スペ

リング独案内』などというような書名でさまざまな種類が出版されたことが分かる。丸善も明治4年に『スペリングブック直訳』という和綴じの本を刊行している。

幕末・明治初期におけるウェブスター辞書移入の問題は非常に興味あるテーマなので改めて記すことにして、辞書誕生の話を進めることにしよう。さて、スペリングブックの驚異的な売れ行きによって財をなしたウェブスターは、この資金を元手にレキシコグラファーとしての道に踏み出し、生涯辞書編纂に携わるようになった。

ところで、アメリカで初めて編纂された辞書は、イギリスのサミュエル・ジョンソンと同名異人のアメリカ人が編纂した“A School Dictionary”(1798)であったという。収録語数4,100の学習辞典であったが、内容的にも特に注目すべきものではなかったようである。この時代のアメリカは、イギリスの辞書を使用するのが普通で、国家としての独立を勝ち取ったとはいえ、言語文化は相変わらずイギリスの支配下にあったといえる。そういう中でウェブスターは、自国アメリカ語の辞書を刊行するという意欲に燃えて編纂に取り組んだ結果、1806年“Compendious Dictionary of the English Language”を上梓した。これは彼の初めての辞書であり、またアメリカで最初の辞書らしい辞書の誕生であった。

彼はこの『簡約英語辞典』編纂中から語源の知識が不可欠であることを認識して各国語の研究に着手し、学んだ言語の数は古語を含めて26ヵ国に及んだという。こうして、およそ20年の辛苦の歳月を経た1828年に“An American Dictionary of the English Language”(2 Vols.)が完結した。齢70歳で達成した大事業であった。「アメリカ語辞典」といっても決してアメリカニズムに凝り固まった辞書ではなく、語源に対しては厳しい批判を浴びたものの、天才的といわれた彼の「語の定義」が凝縮した優れた「英語」辞書として、イギリスやドイツでも賞賛された。さらに、1841年には、数千語を追加した改訂版の“Webster's Unabridged Dictionary”を83歳で刊行した。『アメリカ大辞典』は評判と裏腹に売行き不振で、彼はつぎ込んだ膨大な費用の回収を見ることなく、1843年85歳で生涯を閉じた。

英国史の多面的研究に必備の第一級資料『エグザミナー』
1808年から1822年の完全揃いリプリント出版がついに実現！

The Examiner

Preface by Yasuo Deguchi, Professor of Waseda University

【全15巻セット継続注文番号MSN 96S0351】



1808年、リイ・ハントと兄のジョン・ハントにより、社会並びに芸術全般を論じる総合雑誌の先駆として誕生、奴隷貿易への問題提起、ローマ・カトリック教徒の解放運動、議会法の改正など、社会全般についての急進的、改革的立場からの活発な発言、シェリー、キーツら新しい世代の詩人の発掘、ラムやハズリットなどの時代の偉大な思想を世に紹介するなど、現在も第一級の評価を得る評論誌のリプリント出版。本誌は1881年まで出版されましたが、今回は、最重要期とされる1808年から1822年（ハント兄弟は1821年に編集から撤退）を完全揃いで復刻。リプリント出版として歴史上初の試みです。

社会学、政治学、英文学、経済学、歴史学、美術史、演劇史などの研究に極めて貴重な資料集成です。図書館、研究室、資料室必備の基礎文献としてお勧め申し上げます。

【第一回配本・好評発売中！】

The Examiner 1808-1812

1996. in 5 volumes. (注文番号MBN 9623418)

5巻セット在庫特別価 ¥119,790

【第二回配本・ご予約承り中】

The Examiner 1813-1817

1997.12. in 5 volumes. (注文番号MBN 9623420)

5巻セット予定価 ¥129,790

【第三回配本・ご予約承り中】

The Examiner 1818-1822

1998.12. in 5 volumes. (注文番号MBN 9623421)

5巻セット予定価 ¥129,790

(Pickering and Chatto Pub., GBR)

※消費税は別途申し受けます。



日本総代理店

【本社・日本橋店】〒103 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替：00170-5-5

支店・営業所 東京(お茶の水・有楽町・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・府中・錦糸町・北千住・柏・取手・土浦・船橋)・千葉・八王子・大宮・新潟・札幌・仙台・盛岡・秋田・横濱・静岡・名古屋・津・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄
ニュージャージー・ロンドン・シンガポール

http://www.maruzen.co.jp

1997年3月

通巻第358号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所＝藤本綜合印刷株式会社